

発行者／公益財団法人SOMPO環境財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL：03-3349-4614 FAX：03-3348-8140
URL：https://www.sompo-ef.org/ BLOG：http://sjnkef.edoblog.net/ E-mail：office@sompo-ef.org

1

CSOラーニング制度夏期オンライン合宿を開催しました！

9月3日（金）にCSOラーニング制度夏期オンライン合宿を開催しました。従来は2泊3日の集合形式で行っていた夏期合宿ですが、コロナ禍により昨年度は実施することができませんでした。今年度も集合形式では開催ができなかったものの、全国のCSOラーニング生が一同に会する貴重な機会を何とか復活させたいと考え、オンライン開催に踏み切りました。

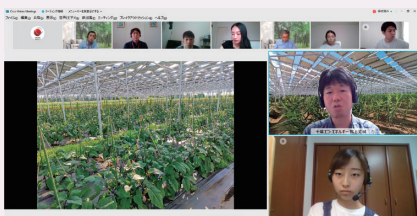
「オンラインで合宿？」と思われるかもしれませんが、朝10時から夜8時まで、全国約60名のCSOラーニング生が学び、議論し、交流する濃密な時間は紛れもなく「合宿」でした。CSOラーニング制度の後半に向け、参加者各自が自分の目標を見つめなおし、意気込みを新たにする機会になったと感じています。

当日のプログラム

・第1部：全体会① 基調講演

千葉エコ・エネルギー株式会社 代表取締役 馬上 丈司さん
「「地域を変える」を仕事にする」

馬上さんが取り組まれているソーラーシェアリングの事業を題材に、私たちの社会が直面している社会課題の現状と、若者がその解決に取り組む意義を、熱い励ましのメッセージを込めてお話しいただきました。



・第2部：分散会① グループディスカッション 「脱炭素社会に向けた取り組みを考えよう」

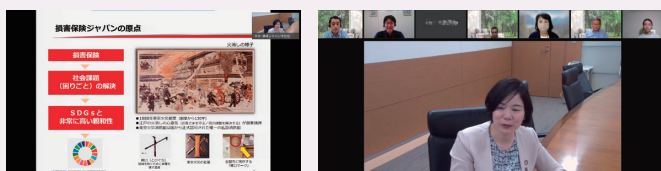
参加者が3つのグループに分かれ、各自が2030年、2050年目標に向けて、日本が最優先で取り組むべきことは何かを議論しました。



・第3部：全体会② 特別講演

損害保険ジャパン株式会社 取締役執行役員 酒井 香世子さん
「損保ジャパンのサステナビリティ」

損害保険ジャパンで長年CSRの取り組みに携わってこられた酒井さんから、様々な取り組み内容や思いを語っていただきました。



・第4部：分散会② グループディスカッション 「企業の環境問題への取り組みを考えよう」

再び参加者が3つのグループに分かれ、損害保険ジャパン・サステナビリティ推進部の皆さんを交えて、企業の環境問題への取り組みの在り方を議論しました。

・第5部：OB・OG交流会

CSOラーニング制度OB・OGの皆さん11名に参加いただき、現在のお勤め先や参加年次ごとの部屋を設け、現役生からの様々な質問に答えていただきました。

全体を通じて、個人、企業、国・自治体など様々な切り口から環境問題を考えることができ、「何のために、どのように環境問題に取り組むのか」という問いを参加者それぞれが捉えなおす機会になったのではないのでしょうか。

参加者の声（抜粋）

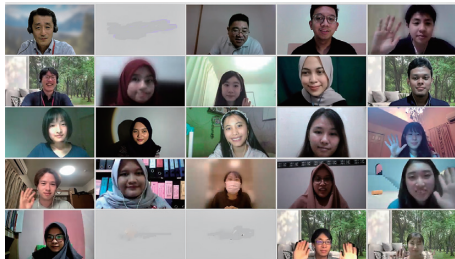
- ・日々様々な社会問題を目にする中で、見える課題そのものだけでなく、その背景から課題の詳細まで、大きな視点を持って問題を捉え、考え、意見を持つようにしようと思った。
- ・自分も何かやりたいやりたいとばかり思ってたけど何もできていませんでしたが、この2020年代に活躍できるのは私たち世代なんだ、と改めて気付かされ、行動しようという意欲が湧きました。
- ・環境問題を解決するチャンスの最後の10年に活躍できる世代であるという言葉が響き、自分が学んで成長するだけでなく、周りに影響を与えていきたいなと感じました。
- ・自分が思いつかない発想をたくさん知ることができ、とても楽しいディスカッションができました。突拍子のない意見に対しても、皆が真剣に考えて意見をくれて、とても参考になりました。
- ・他のグループの意見もあることで、疑問点などを客観的にみることができました。また、違った目線からの意見が出て話が膨らんだり深まったりすることが楽しかったです。
- ・「同世代の先輩」の方々が環境問題に意識を向け仕事を通じて携わっていると知り、刺激を受け、意欲が沸いた。定例会でインターン生と話すことや講演会で専門家の話を聞くのとはまた違い、とても有意義な時間だった。

2

日本とインドネシアのラーニング生交流会を開催しました

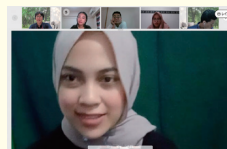
今年も9月21日に30名の学生が参加して、第3回目となる「日本とインドネシアのラーニング生交流会」を開催しました。

参加学生たちは、事前に相手国の社会情勢や環境問題の現状等について学ば勉強会に参加し、それぞれの問題点、最新の対策等を学習して意見交換会に臨みました。



意見交換の様子

- ・「インドネシアではジョコ大統領主導で首都をカリマンタン島へ移転すると発表しているが、野生動物への影響などどう考えるか？」（日本学生）
→「反対する意見もあるが、首都移転といっても、ジャカルタの首都機能をすべて移転するわけではなく政府機能の移転であり、深刻な交通渋滞や、大気・水質汚染の改善の観点からは良いと思う」（インドネシア学生）
- ・「マイボトル推進（ペットボトル削減）のため、大学事務局と折衝してウォーターサーバーを設置してもらった。」（インドネシア学生）
→「日本ではそこまでの活動はできていない…。自分たちも働きかけを進めたい」（日本学生）
- ・他にも、「子供へ啓発・教育支援という点、インドネシアではストリートチルドレンへの援助・教育が頭に浮かぶが、日本ではどうか？」、など国情の違いを反映した質問もあり、参加した学生は相互に刺激を受けていました。



3

環境分野の博士号取得の支援を実施

環境財団では学術研究助成として、大学院生（博士課程）の環境研究を支援しています。助成金を活用してこの度博士号を取得された東北大学の豆野皓太先生（現助教）にお話を伺いました。

Q1 博士研究の内容を教えてください

私は、博士論文研究において、環境経済学をはじめとする社会科学アプローチの生物多様性を対象とした保全科学分野への適用に関する研究に取り組んできました。具体的には、世界自然遺産登録を目指していた奄美大島*において、外来生物であるノネコの管理に対する地域住民や観光客をはじめとする利害関係者の選好の評価に関する研究を行ってきました。

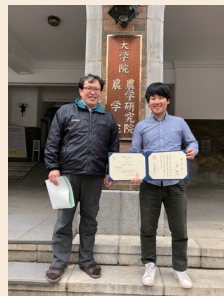
*2021年7月に第44回ユネスコ世界遺産委員会にて世界自然遺産への登録が決定されました。

Q2 弊財団の助成金はどういう点でお役に立ちましたか

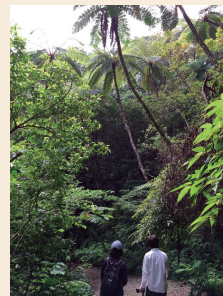
貴財団の助成金を主に現地での調査や共同研究者との打ち合わせに使用しました。特に、COVID-19の蔓延により計画していた調査や研究の実施が難しくなったこともあり、調査や研究の再設計や再調整などが必要となりました。この際に、本助成金を活用し、共同研究者と密な打ち合わせができたことは、博士研究を進める上で非常に役立ちました。

Q3 今後のご予定、今取り組んでいる研究を教えてください

現在では、外来生物管理に関する研究に加え、農地の生物多様性保全と安定的な食料生産の両立に興味を持って研究を進めています。特に、人々の実際の行動に着目し、実験的なアプローチやBig Dataを用いて実際の行動に着目した研究にも着手しはじめています。これからは、自身の研究成果を社会に還元していけるような研究者を目指したいと思います。



指導教官と豆野先生（右）



奄美大島調査の様子

博士号取得おめでとうございます。益々のご活躍を期待しています。

4

「市民のための環境公開講座」特別講座を開催しました

8月21日（土）「市民のための環境公開講座」の特別講座を開催しました。テーマは「震災後10年の気仙沼の海から、人と自然のつながりを考える」です。

講師の畠山信さん（NPO法人森は海の恋人副理事長）は、東日本大震災後の10年間、気仙沼の舞根（もうね）地区で復旧・復興事業に奔走する傍ら、震災後の自然環境を生かした環境づくりに取り組まれてきた方です。「震災で2回、自然が破壊される」ことを防ぐために、行政や地域住民との粘り強い交渉、綿密な調査研究を行うことで、防潮堤の建設や護岸工事を行わない、自然環境を活かしたままでの復興を成し遂げられました。



震災によって新たに「得たもの」である「塩性湿地」や、畠山さんが管理されている牡蠣いかだの上から中継を繋ぎ、参加者とも活発な意見交換が行われました。画面に広がる自然の様子から、気仙沼には豊かな生態系が蘇っていることが伝わってきました。

講演の内容を象徴していたのは、「自然の回復力は非常に強い。この力をどう妨げずに活かすか」という畠山さんの言葉です。舞根地区の海と緑に囲まれた美しい姿と、防潮堤や護岸に囲まれた他地区との景色を見比べながら、私たちの日々の営みがどれだけ大きく自然の在り方を変えるのか、多くの示唆を与えてくれる講演でした。



ダイジェスト・参加申込はこちら

